
ワンだ！F U L L D A Y ' S

カトラス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワンだ！F U L L DAY, S

【著者名】

N4636E

【作者名】

カトーラス

【あらすじ】

おじらと、お姉ちゃんは毎日、楽しく暮らしていたんだ。でも、大嫌いなアイツが現れてからとこいつもの……

(前書き)

弥生 祐さん主催の五分企画参加作品です。
五分企画で検索すると、他の作者のお話が楽しめます。

その日のおいらは、朝から大好きなお姉ちゃんに近所の公園まで散歩に連れていくつもりで「機嫌だつた。公園でお姉ちゃんは、久々にボール遊びをしてくれて、おいらはとても幸せな気分を満喫した。

でも、散歩から戻つてお家に帰つてみると、とたんにおいらの幸せな気分は吹き飛んだのだ。

さきほどまでの、おいらの幸せな気分をぶちこわした原因は、おいらの大嫌いなアイツが、お家の前でお姉ちゃんを待つていたからだ。

アイツは、おいら達を見つけると、胡散臭い笑顔を浮かべて、お姉ちゃんに近寄つてきた。

お姉ちゃんも、頬を緩ませて、ふだんおいらに見せた事のない表情をして楽しそうだ。

あいつは、しばらくの間、おいらのことを無視してお姉ちゃんと会話していくが、おいらは早くお家に入りたかったので、お姉ちゃんに催促するように吠えた。すると、あいつは、あろひことかおいらにちよつかいをかけてきやがつた。

「ほら、チビ犬」と言って、アイツは中腰になつて、おいらの皿の前に片手を突き出したのだ。

全く持つて無礼千万な奴だ。おいらには、ミユウと言つ立派な名前があるにもかかわらず、チビ犬だと言いやがつた。しかも、おいらにお手をしると催促してやがる。そもそもアイツは半年前ほど前にはじめて姿を現した時から、初対面にかかわらず、おいらにお手をしろと強要する嫌な奴だ。

おいらは、思いつきり吠えてやつた。

アイツは、スッと差し出していた手をひっこめると、おこりに向かつて文句を吐いた。

「……つたく可愛くないチビ犬だなあ」

全く持つてして腹の立つ奴だ。

おこりは、更に吠えまくつてやつた。

「いひあ、//コウー 静かにしなやー」

おいらの尋常ならぬ様子を見て、お姉ちゃんは、おいらの頭を軽く叩いた。

ちくしょ‘‘、ちくしょ‘‘、

アイシのせこで、お姉ちゃんに怒られてしまつたじやなこか。アイシは、叩かれたおいらを見て、さまあみひーつていつ表情をしていた。

しかし、なんで、お姉ちゃんはアイシの味方をするのだらひへ。どうにもこりこも、おいらは納得がいかないのだ。

アイシは、どう見ても悪い奴に決まつているのこ……

こつか、本性を見せて、お姉ちゃんを泣かせるに決まつてこるのだ。

そのうか、アイシの化けの皮を剥がして、お姉ちゃんをアイシの魔の手から救わないとこないとおいらは思つた。そんなことを考えていたら、首元が激しく引っ張られた。

「あ、//コウ、家の中に入りなやー」

お姉ちゃんは、おいらをお家の中にひっぱり込むと、首ひもを外して、お姉ちゃんの部屋に閉じ込めた。

「//コウ、お姉ちゃん、ちよつと出かけぐるから、//コドおとなしくしとわなやー」

そう言つて、お姉ちゃんは、無情にも部屋の扉をしめて、おいらに留守番を命じたのだった。

くそ、こつも、アイシが現れると、おこりは留守番をやられる。しかも、最近アイシが現れる頻度も多くなつてゐるよつた氣がする。早く、なんとかしないと、お姉ちゃんは、アイシに毒されてしまふ氣がして、気が氣でないのだ。

しかし、一体どうしたらいいものかと、考えていたら眠たくなってしまった。

流石に、ボール遊びをしてもらつたから、体が疲れてしまったようだつた。

そうして、おこらは、しばしの眠りにつくこととした。

どれくらい、おこらは寝たのだろうか？　おこらは、ただならぬ気配と物音を感じて目が覚めた。

部屋の中は、すっかり薄暗くなつてしまつていて、昼とも夜ともわからない。

おこらのつたた寝をさえぎつた気配と物音を探すために、薄暗い部屋に目をこらした。

目をこらした先には、おぞましい光景があった。

なんと……　その光景とは、大好きなお姉ちゃんが、ベッドの上で裸にされて、アイツに襲われていたのだ！　ついに大嫌いなアイツが本性を現したのだった。しかも、お姉ちゃんは、アイツに上から覆いかぶされていて、苦しそうな声を上げているではないか！

「、これは、お姉ちゃんの一大危機ではないのか！！

しかも、アイツは、よく見ると、何度も何度も腰を動かしては、お姉ちゃんを攻撃している。そのたびに、お姉ちゃんは、死にそうな声をあげている。

「のままでは……　お姉ちゃんが殺られる。

ぐ、ぐ、アイツめ……　大好きなお姉ちゃんをいじめやがつて

番犬としての意地を見せる時がきたのだ。

おこらは、邪悪なアイツに決死の覚悟で突進した。

そうして、アイツの汚い尻をロックオンすると、思いつきり牙をたてて噛み付いてやつた。

「うぎやああ」

アイツは、物凄い声をあげて、お姉ちゃんの体から離れた。

「キャーー

お姉ちゃんも、今まで聞いたことのない声をあげていた。
アイツは、おこりの攻撃によって、ベットから転げおちて、のた
うちまわってころ。

ついに、悪いアイツを退治してやつた瞬間だつた。
おいらは、寝めてもうひつ為にお姉ちゃんの横にいき、尻尾を振つ
た。

お姉ちゃんは、おこりを見ると、怖い顔になつた。

「ミコウ何でことするのよー！」

おこりには、お姉ちゃんが、何で怒つてゐるのか、全くわからなか
つた。

でも、すぐに、お姉ちゃんは優しい顔になつておいらに言つた。

「ミコウは、お姉ちゃんが襲われてると思つて助けてくれたのねー！
ありがとー！」

お姉ちゃんは、おこりの頭をなでて、抱きあづると鼻の頭にチコ
ウをしてくれた。

あの日以来、アイツは、おこりの前に姿を現さなくなつた。

お姉ちゃんも、以前のようじ、おこりをひとつひとつせずによ
く遊んでくれるようになった。

また、お姉ちゃんを独り占めできるワンダフルな日々を取り戻せ
たのだ。

しかし、ワンダフルな日々は長くは続かないようだ。

近所の公園からお姉ちゃんと帰つてくると、お家の前で、見たこ
ともない新たなアイツが手を振つてお姉ちゃんの帰りを待つていた
のだ。

でも、おこりは嬉しかつた。

きっと、こいつもまた、化けの皮が剥がれて、おいらに噛まれる
に違いないと思つたからだ。

了。

(後書き)

実体験を元にアレンジして書きました。
いやいや、今回の五分は、動物が苦手な作者としては、大変苦し
みました(汗)
感想など、いただければ励みになります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4636e/>

ワンだ！ FULL DAY'S

2010年10月8日15時02分発行